

**陸上無線通信委員会 デジタルコードレス電話作業班（第4回）
議事録（案）**

1 日時

平成 28 年 10 月 7 日（金） 16:30～17:45

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 総務省 8 階 第一特別会議室

3 出席者（敬称略）

副 主 任：児島 史秀
構 成 員：伊藤 泰成、遠藤 和隆、大谷 満、小谷 元史、加藤 正美、
金子 雅彦、小林 充生、標 淳也、平良 正憲、武久 吉博、
野島 友幸、則武 潔、平澤 弘樹、森川 和彦、森田 公剛、
八木 宏樹

オブザーバ：古野 宏晃（タムラ製作所）

事務局（総務省）：（移動通信課）伊藤課長補佐、和田係長

4 配付資料

- 資料コード 以作 4-1 デジタルコードレス電話作業班（第 3 回） 議事録（案）
- 資料コード 以作 4-2 sXGP 方式技術的条件案と他システムとの干渉検討
- 資料コード 以作 4-3 sXGP 導入時のトラフィック検討
- 資料コード 以作 4-4 sXGP 方式キャリアセンスレベルの検討
- 資料コード 以作 4-5 デジタルコードレス電話作業班に係る質問・指摘事項
- 資料コード 以作 4-6 タムラ製作所インカムシステムについて

5 議事

(1) 前回議事録の確認

事務局より資料コード 以作 4-1 に基づき説明が行われ、（案）のとおり了承された。

(2) sXGP 方式の技術的条件案と他システムとの共用検討

平良構成員より資料コード 以作 4-2 から 4-5 に基づき説明が行われた。

なお、主な質疑は以下の通り。

平澤 構 成 員： 資料 P9 の 5MHz キャリアの不要輻射について、前回の作業班において移動局の不要輻射の許容値は公衆 PHS の制御チャネルの帯域で-25dBm/MHz と提案され、これについて当方において検証したいとお伝えしたところであるが、XGP フォーラムからデータ提供を頂き検証した結果、当方で実施したモンテカルロ・シミュレーションにおいても同様の計算結果が得られたため、計算上問題なかった旨お伝えする。

また現実的な実運用時においては、屋内利用が主であると考えられ、セル半径も大きくなく、移動局の電力も概ね 100mW 以下で運用されると想定され、且つ 5MHz 1 波であれば携帯電話ほど高密度な運用になることは想定されないため、移動局に限って不要輻射の許容値を-25dBm/MHz とすることは、特段問題ないとコメントしておく。

(3) DECT 準拠方式を用いたインカムシステムの紹介

オブザーバ古野氏より資料コード 15作 4-6 に基づき説明が行われた。
なお主な質疑は以下の通り。

児島副主任 : 資料 P84「2グループ構成のインカムシステム」について、マルチキャストグループを複数設けるとのことだが、これは需要があるものなのか。

古野オブザーバ : 放送局においては、仕事の役割の違いによりグループが複数あり、2～4程度のグループは必要である。

武久構成員 : P82 に記載されているインカムの特徴について、『「常時通話」「ハンズフリーで使用」との記載があるが、「常時通話」の意味は、子機からのアップリンクも常に ON ということか。

古野オブザーバ : 然り。現行のシステムは常時 ON であるが、次期システムにおいてどのような仕様とするかは未定である。

武久構成員 : 常時 ON であれば、フルトラフィックとなり、大群化効果が薄れるのでは。DECT の場合 24 スロットあるものの、常時発射されているとシステムとして如何なものかと思う。

古野オブザーバ : 実運用時、1グループにおいては、4～10 数名の使用が想定され、全ての使用者が常時通話できるよう考えているが、次期システムについてはまだそこまで検討は進んでいない。

武久構成員 : 了。

(4) その他

全体を通しての質疑応答が行われた。主な質疑は以下の通り。

小谷構成員 : 資料 P9 の図において、新たな制御チャンネルが記載されているが、今までの検討では、これまでの中央の制御チャンネルに影響を与えるかどうかのシミュレーションであると理解していたが、今回は新たに周波数帯の端に制御チャンネルを移す方針ということによろしいか。35CH、37CH を制御チャンネルにする場合、PHS 側は隣接チャンネルを含めると 4 チャンネル使用できなくなるが、そのような理解でよろしいか。

また、その場合、既存の PHS 機種の利用ができなくなる可能性はあるか。

平良構成員 : 35CH、37CH を制御チャンネルにする場合、このチャンネルを使用しているエリアについては干渉を与えてしまう恐れがある。

新たな制御チャンネルへの移行については、詳しくは次回の作業班において説明したい。

また、事務局より資料コード 15作 4-6 に関連して、DECT 方式の多元接続する場合の現行の多重数の規律等について今後見直しを行う可能性があること及び作業班の構成員について変更があった旨について説明があった。

さらに、次回の作業班の開催については 10 月 28 日(金)を予定している旨周知された。

(閉会)